

北海道デジタル人材育成推進協議会 ～2025年度取組報告・2026年度事業方針案～ (事務局資料)

2026年3月3日

(本資料のお問い合わせ先)

経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課

課長 竹野 直人 (担当: 矢野、小出、鈴木)

電話: 011-709-2311 (内線2566)

E-mail: bzl-hokkaido-seizojoho@meti.go.jp

北海道デジタル人材育成推進協議会の取組

- 北海道経済産業局は、産業界、教育機関、行政機関等で構成する「北海道デジタル人材育成推進協議会」を2023年3月に設置（地域ブロックでは全国唯一）。
- 本協議会では、デジタル田園都市国家構想で掲げる、2026年度末までにデジタル人材230万人育成に寄与するために、北海道から優秀なデジタル人材を数多く輩出するとともに、今後の道内デジタル産業の発展のためにこれら人材の地元就職も強化。

これまでの 主な取組	1. デジタル人材のターゲティングとカリキュラムの検討【取組1】	2023年度終了
	「産業界が求める人材」と「教育界が育てる人材」のマッチング及び本協議会で扱うデジタル人材像の設定	双方人材像・ニーズの 適合性の確認・可視化・調整
	2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】	継続中
	<ul style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムの強化 <ul style="list-style-type: none"> ① 「既存PBLケースバンク」の設置、及び大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチングの実施 ② 大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化 など (2) 大学等への実務家教員派遣の仕組みの構築 <ul style="list-style-type: none"> ① 実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの実施 ② 「実務家教員派遣ケースバンク」の設置 ③ 実務家教員による講義の動画コンテンツの制作 など (3) 道内企業（社会人）のリスキングの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・教育界のリスキングの概要、既存育成メニューの情報発信 など 	3. 道内企業への就職促進【取組3】
<ul style="list-style-type: none"> (1) 道内学生と企業との接点拡大の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージの実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 教員向け合同企業説明会「教員×企業」 ② 実践的インターンシップ支援「学生×仕事」 ③ 焚火トーク「学生×経営者」 (2) U・I・Jターン希望者への情報発信 	4. 参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用【取組4】	継続中
<ul style="list-style-type: none"> (1) 協議会参画機関が実施する、デジタル人材育成に関連する情報等を発信するメルマガの継続配信 (2) 協議会参画機関が提供するプログラムとの連携 		

参画機関一覧（順不同）

★ 2025年度ワーキンググループ会議（2025.7.10）以降に参画した機関

※2026年3月3日現在

教育機関	1	国立大学法人北海道大学	教育機関	17	北海道医療大学 ★
	2	国立大学法人室蘭工業大学		18	函館工業高等専門学校
	3	国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学		19	苫小牧工業高等専門学校
	4	国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学		20	釧路工業高等専門学校
	5	国立大学法人旭川医科大学		21	旭川工業高等専門学校
	6	国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学	産業界	22	北海道経済連合会
	7	公立ほこだて未来大学		23	一般社団法人北海道商工会議所連合会
	8	公立千歳科学技術大学		24	一般社団法人北海道IT推進協会
	9	札幌市立大学		25	一般社団法人北海道機械工業会
	10	旭川市立大学		26	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
	11	札幌大学		27	北海道
	12	札幌学院大学	行政機関	28	札幌市
	13	北海学園大学		29	文部科学省（高等教育局 専門教育課）
	14	北海道科学大学		30	経済産業省（商務情報政策局 情報技術利用促進課）
	15	北海道情報大学		事務局	経済産業省北海道経済産業局 （地域経済部 製造・情報産業課）
	16	北星学園大学			

2025年度取組報告

デジタル人材育成機能の強化

2025年度

大学・高専への実務家教員派遣等のマッチング状況

講義数・受講人数
は、2024年度と比較して約2倍に増加

(参考)
2024年度実績

6校10講義
815人受講

2025年度実績

8校20講義
2,027人受講

2026年度見込み

2025年度実務家教員派遣等を実施した大学・高専は、2026年度ほぼ継続の見込。加えて、旭川市立大学（1講義）および札幌大学（1講義）から、新規のマッチング希望が寄せられている。

区分	学校名	講義名	期	対象	人数	実課題提供&実務家教員派遣 企業名
PBL	北海道大学	データ活用特論C	前期	博士課程および修士課程	15名	日本電気（株）官公インテグレーション統括部
	苫小牧高専	宇宙科学概論	前期	第4学年	30名	SPACE COTAN（株）
実務家教員派遣	北海道大学	データ活用入門A	前期	学部2～4年次、修士・博士課程大学院生	20名	①日本電気（株）スマートシティ統括部 ②（株）NTTドコモ コンシューマサービスカンパニー データプラットフォーム部
	室蘭工業大学	情報セキュリティ特論	前期	博士前期課程1年次・2年次	230名	（株）北海道銀行
		工学技術者倫理	後期	学部3年（数理情報システムコース）	100名	①トヨタ自動車北海道（株） ②日鉄ソリューションズ北海道（株）
	北見工業大学	情報セキュリティ基礎	前期	学部2年次	410名	北海道ガス（株）
		情報セキュリティ特論	前期	博士前期課程1年次	120名	（株）澄川工作所
		PythonプログラミングⅡ	前期	情報デザイン・コミュニケーション工学コース 学部3年次	90名	日鉄ソリューションズ北海道（株）
		ソフトウェア工学	後期	情報デザイン・コミュニケーション工学コース 学部3年次	45名	（株）インセンブル
	札幌大学	産業情報各論	後期	地域共創学群2年生以上	65名	（株）岩谷技研
	北海学園大学	基礎演習	前期	工学部電子情報工学科1年次	70名	エコモット（株）
		計算機実習Ⅱ	後期	工学部電子情報工学科2年次	80名	フエンリル（株）
	北海道科学大学	AI入門	前期	工学部情報工学科2年次	107名	NECソリューションイノベータ（株）北海道支社
		ソフトウェア工学Ⅱ	後期	工学部情報工学科3年次	70名	①NECソリューションイノベータ（株）北海道支社 ②（株）エルムデータ ③日鉄ソリューションズ北海道（株）
		情報工学実験Ⅲ	後期	工学部情報工学科2年次	110名	（株）ズコーシャ
	苫小牧高専	道内DX企業見学会	前期	第3学年	20名	岩田地崎建設（株）
		道内DX企業見学会※	後期	第3学年	40名	石屋製菓（株）
道内宇宙ビジネス企業見学会※		後期	第3学年	45名	SPACE COTAN（株）	
AI・データサイエンスⅡ		前期	第3学年	200名	伊藤組土建（株）	
旭川高専	数理・データサイエンス	後期	第3学年	160名	エコモット（株）	

★受講人数は、講義の定員数を基準に算出。

※苫小牧高専：道内工場見学旅行の一環で実施。

(参考) 実務家教員派遣等のマッチングの仕組み



▼マッチングまでの流れ



北海道デジタル人材育成推進協議会 参画機関における【①～⑦】の役割



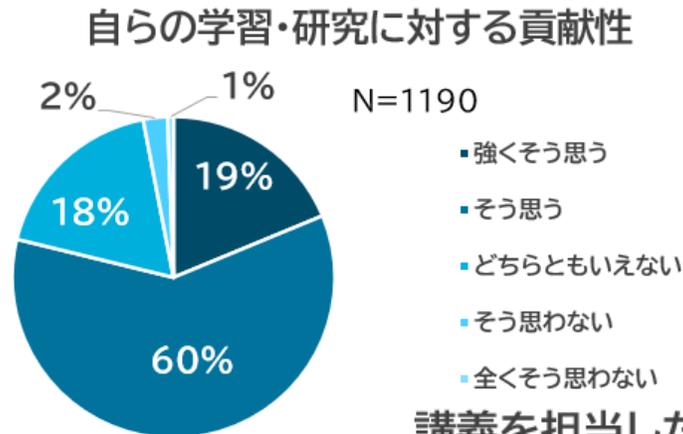
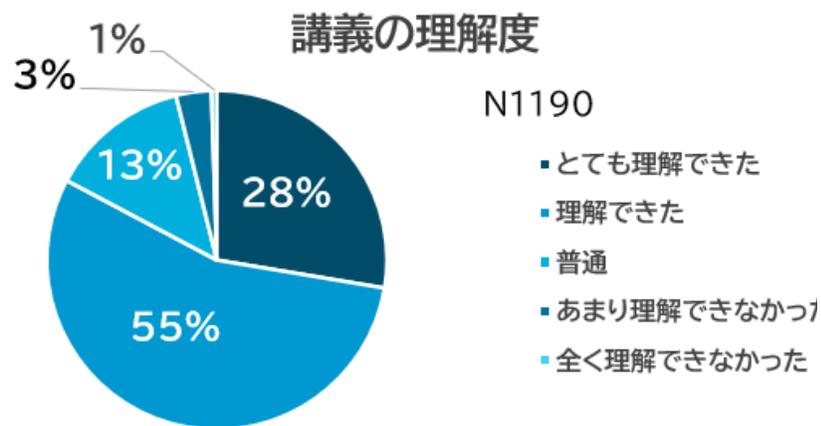
(参考) 実務家教員派遣講義の事例紹介 (2025年度開講分)

学校名	室蘭工業大学
講義名	工学技術者倫理
担当 教員	大学院工学研究科・教授 塩谷 浩之 氏
企業名	トヨタ自動車北海道 (株)
開講 内容	<ul style="list-style-type: none"> DXとは何か 業務課題の発見と業務構成 デジタル技術の活用事例 DX人材に求められるキャリア <p>※全15コマ中1コマを担当</p>
講義 風景	

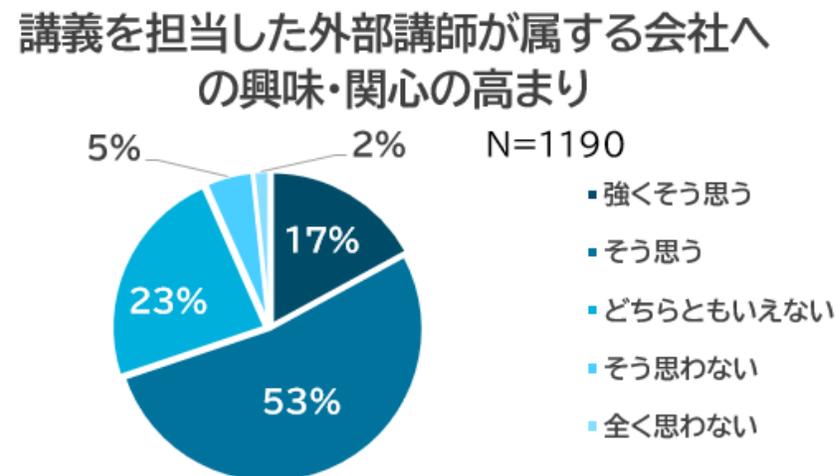
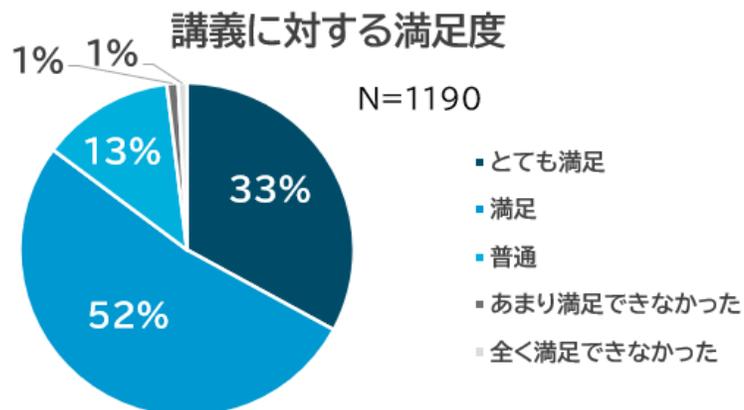
学校名	苫小牧工業高等専門学校
講義名	道内DX企業見学会
担当 教員	創造工学科・教授 高橋 労太 氏
企業名	岩田地崎建設 (株)
見学 内容	<ul style="list-style-type: none"> 北村遊水地排水門工事におけるデジタル活用現場を見学 座学：建設業界における ICT・DX の動向、現場での活用事例、今後の展開等を解説 実習：AR、ロボット、LRTK、安全支援アプリ等の最新技術を用いた実習を実施
見学 風景	

実務家教員派遣等の学生アンケート結果

- 学生アンケートでは、講義の理解度・満足度・学習への貢献性・企業への関心のいずれの項目でも肯定的な評価が得られ、大学等が期待する講義内容を実務家教員が提供できたことが確認された。
- 加えて、企業の実践的な取組や具体的な事例の紹介を通じて、学生の企業への関心が高まる効果も見られた。
- これらの結果から、昨年度に続き、2025年度も事業目的を果たすことができた。



※本結果は、アンケートを取得できた講義の結果を単純に積み上げたものです。そのため、講義ごとに内容やレベルが異なり、また受講した学生もそれぞれ異なることから、直截的な解釈は避け、参考値としてご覧ください。



「実務家教員派遣ケースバンク」の設置

- 2025年度は、既存のPBLケースバンクに加え、実務家教員派遣講義のさらなる活用促進と、派遣に協力いただいた企業のPR強化を目的として、「実務家教員派遣ケースバンク」を新たに設置し、北海道経済産業局ホームページにて公開する。

当協議会でマッチングした実務家教員派遣講義（18講義・22企業）の情報を掲載予定であり、2025年度内に公開を予定。


経産局HPにて公開予定

[施策一覧](#) | [経済動向・統計](#) | [公券情報](#) | [イベント情報](#) | [各種相談窓口](#) | [組織案内](#)

[ホーム](#) > [デジタル化・DX](#) > [北海道デジタル人材育成推進協議会](#)

北海道デジタル人材育成推進協議会

経済産業省北海道経済産業局は、道内におけるデジタル人材の育成・確保に向けて、政府、地方公共団体、産業界および高等教育機関による連携・協力の在り方を議論するため、北海道デジタル人材育成推進協議会を2023年3月に設置しました。
 文部科学省および経済産業省は、全国版デジタル人材育成推進協議会を2022年9月に設置しており、北海道協議会はその地域ブロック版として全国初となります。

開催実績等

- ▶ [北海道デジタル人材育成推進協議会の設置～地域ブロックでは全国初の試み～](#)
- ▶ [第1回本会議（2023年3月14日）](#)
- ▶ [ワーキンググループ開催報告（2023年9月26日）](#)
- ▶ [第2回本会議（2024年3月11日）](#)
- ▶ [2024年度本会議（2025年3月6日）](#)

関連事業開催情報

- ▶ [《更新》「インターンシップ導入・強化セミナー」と「インターンシッププログラム構築支援」を実施します（26/01/22 update）](#)
- ▶ [道内大学・企業連携によりデジタル人材育成カリキュラムを強化します～課題解決型学習（PBL）と実務家教員の派遣～（24/05/28）](#)

▼実務家教員派遣ケースバンクの掲載内容イメージ

北見工業大学 情報セキュリティ基礎

**実務家教員
派遣企業**

北海道ガス株式会社



	講義の概要
企業情報	業 種：電気・ガス・熱供給・水道業 事業内容：ガス事業、電気供給事業、熱供給事業等 H P： https://www.hokkaido-gas.co.jp/
実務家教員登壇者	デジタルトランスフォーメーション・構造改革推進部 阿部 実咲 氏
実務家教員講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報とは、情報事故はなぜ発生するのか ・ サイバー攻撃が企業に与える経済的損失 ・ 北海道ガスグループの情報セキュリティ対策 ・ 情報セキュリティ対策の難しさ ・ インシデント対応演習（ランサムウェア感染、Webサイト改ざんをテーマに、クイズ形式により演習を実施）
実務家教員に依頼する理由・期待	情報セキュリティのケーススタディを現場に近い方から講義して頂ければ、より迫真の内容となり、セキュリティの重要性が学生にさらに伝わるため。
講義内容	構成第1～4回：情報セキュリティの基礎 第5回：リテラシーと法制度 第6回：ケーススタディ（ 実務家教員登壇 ） 第7回：演習 第8回：試験提案内容「ケーススタディ」



実務家教員派遣等のマッチングプラットフォームの整備

- これまで、実務家教員の派遣等は協議会事務局が仲介役となり、産学間の個別マッチングを実施。
- 今後、プログラムのさらなる拡大に向けては、産学双方が直接マッチングできる環境整備が必要。
- 北海道大学と連携し、この課題を打開するため、産学双方が直接マッチングできるマッチングプラットフォームを整備中。

BEFORE

- ① これまでは、大学・高専から「講義に登壇してほしい企業」を探す一方向的なマッチングが中心となっていた。
- ② 実務家教員派遣等による講義は単発で終わるケースが多く、特定大学のみで完結してしまう傾向があった。
- ③ マッチングは、事務局である北海道経済産業局が仲介役として個別に対応していた。

AFTER

- ① 企業のシーズと大学・高専のニーズを相互に発信し合う双方向型マッチングへ転換。
- ② ケースバンク等と連動させ、講義が単発で終わらず、複数機関で継続・展開される仕組みを構築。
- ③ 事務局の個別対応から、協議会ネットワークを活用した共同型マッチングへ移行。

▼（参考）2025年度までのマッチング方法



2026年度より

北海道大学が作製した
マッチングプラットフォームを活用し
プラットフォーム内で
マッチングを完結



※当該プラットフォームの稼働開始時期は、2026年度下期を予定

(参考) マッチングプラットフォームのイメージ

- 大学・高専は、これまで同様に実務家教員派遣等の“ニーズ”を登録でき、企業（経済団体を含む）がそれを確認して応募し、マッチングへ進むことができる。
- 企業側も自社が提供できる講義テーマや見学会、研究協力などの“シーズ”を登録でき、大学・高専はそれを検索して内容を確認し、登壇依頼や個別連絡を行うことが可能となる予定。

教育機関向けページのイメージ

ようこそ、北海道大学さん
BridgePro 産学官連携プロジェクト PBL/実務家教員マッチングプラットフォーム

トップページ ニーズ登録 マイニーズ管理 リクエスト確認 マッチング承認 企業シーズ検索 送信リクエスト

マッチング状況 プロフィール管理 事務局への問い合わせ ログアウト

大学等ダッシュボード

ニーズ管理 シーズリクエスト管理

ニーズ管理

登録ニーズ数 3	交渉中マッチング 0	成立マッチング 0	企業リクエスト 0
-------------	---------------	--------------	--------------

最新のお知らせ

事務局からのお知らせテスト
堀江テストです。
北海道デジタル人材育成協議会 - 2026-02-03T11:14:30.176679

最近のニーズ (直近30日間)

直近30日間に登録されたニーズはありません

←
産学
双方
から
連絡
可能
→

企業向けページのイメージ

ようこそ、'さん
BridgePro 産学官連携プロジェクト PBL/実務家教員マッチングプラットフォーム

トップページ ニーズ検索 シーズ登録 シーズ管理 受信リクエスト マッチング状況 返信確認 通知管理

詳細リクエスト状況 プロフィール管理 事務局への問い合わせ ログアウト

企業ダッシュボード

ようこそ、株式会社: 'さん!

公開ニーズ数 197	交渉中マッチング 0	成立マッチング 1
---------------	---------------	--------------

ニーズ検索 シーズ管理

ニーズを検索

マッチング成立通知 (1件)

マッチング成立: 【負荷テスト】テスト講義_7262
テスト大学Sがマッチングを承認しました。マッチングが成立しました。
2026-02-05 16:28
関連案件: 【負荷テスト】テスト講義_7262

重要な通知 (2件)

【負荷テスト】テスト講義_7262の詳細リクエスト承認

道内企業（社会人）のリスキリングの推進

- 北海道大学リスキリングプログラム（DREP）と経済産業省「マナビDX」「マナビDXクエスト」を社会人向けリスキリングメニューとして推進。

（ア）北海道大学デジタルリスキリングプログラム(DREP)

目的	地域における人材全体のデジタルスキルレベルの底上げとデジタル中核人材の育成
講義メニュー	<p>5ステージ・6コースで構成</p> <p>①<u>ステージB</u>：デジタルベーシックコース</p> <p>②<u>ステージ1</u>：デジタルリテラシーコース</p> <p>③<u>ステージ2</u>：データ活用コース</p> <p>④<u>ステージ3</u>：AIコース</p> <p>⑤<u>ステージ4-1</u>：地域課題解決コース(1)</p> <p>⑥<u>ステージ4-2</u>：地域課題解決コース(2)</p> <p>*①～④はデジタルスキルの底上げ(オンデマンド形式)</p> <p>⑤⑥は学生もしくは教員と共に受講生がデータを活用し課題解決に取り組むことでデジタル中核人材を育成(オフライン形式)</p> <p>※⑤⑥は①～④の修了生が対象</p> <p>詳細は<13ページ>参照</p> <p>(2026年2月24日時点の情報を基に作成)</p>
登録状況 2026年 2月24日時点	<p>協定締結数：189企業・団体</p> <p>受講登録者数：9,133名</p> <p>※当協議会経由申込み数 28企業・団体</p>

（イ）経済産業省「マナビDX」「マナビDXクエスト」

目的	地域企業・産業のDXの実現に向けたデジタル人材の育成
講義メニュー	<p>①「マナビDX」 民間企業が提供するeラーニングコンテンツのポータルサイト</p> <p>②「マナビDXクエスト」ケーススタディ 教育プログラム 課題解決のプロセスを疑似体験するオンライン教育プログラム</p> <p>③「マナビDXクエスト」地域企業協働プログラム 受講生がチームを作り、実際の企業の課題解決に取り組む研修プログラム</p> <p>詳細は<14ページ>参照</p>
受講状況 2025年度実績	<p>②：全国2,093名が受講、うち道内は27名 全国受講者のうち社会人の割合は約9割</p> <p>③：全国390名が受講、うち道内は3名</p>

(参考) 北海道大学デジタルリスキリングプログラム(DREP)

DREPのゴール

- ▶ 少子高齢化社会がもたらす労働力減少が間近に迫っており、デジタル技術の導入・活用による業務の効率化・新しいモデルの導入は待ったなしの状況となりつつありますが、デジタル技術の導入・活用により職場を変えていくためには、社員・職員の皆さんの「デジタルに関する理解」が欠かせません
- ▶ また、これから職場の戦力となるZ世代（デジタルネイティブ）がその「デジタル力」を存分に発揮する為にも、管理職や先輩社員・職員による「デジタルに関する理解」と協力が欠かせません
- ▶ DREPは職場における「デジタルに関する理解」の醸成、即ち「デジタルスキルレベルの底上げ」の実現を目指して開発されたオンライン研修プログラムです。加えて、オンライン研修を修了した希望者に自組織の課題解決演習を提供し、「デジタル中核人材の発掘・育成」も目指します

DREPの研修メニュー

- ▶ 5ステージ・6コースで構成 - 受講者の異なる需要に対応します。

DREPのスケジュール

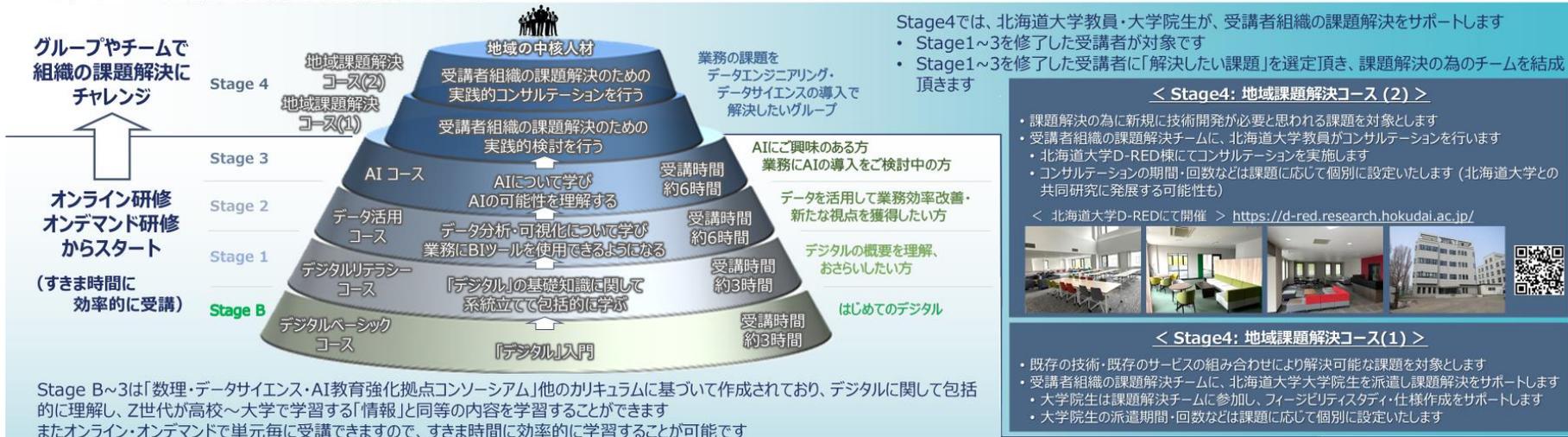
DREPは2024/10/1から2028/2/29 まで受講可能です
2025/10/8～ Phase3研修がはじまります!
 多くの「北海道の社会人」の皆様の受講をお待ちしています!

詳細はDREPポータルサイトへ
<https://drep.jp>

お問い合わせはDREP事務局まで
drep_kenshu@dred.hokudai.ac.jp



DREPポータルサイト



<Stage B: デジタルベーシックコース> (2025/10/8～ 新設)

高校の「情報I」に準拠した内容です
 ▶ 「情報で問題を解決する」「情報を伝える」「コンピュータを活用する」「データを活用する」について学びます

<テキストの例>

<Stage 1: デジタルリテラシーコース> (2025/10/8～ 改編)

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム (リテラシーレベル) に準拠した内容です
 ▶ 社会におけるデータ・AI活用について学びます

<テキストの例>

IoTとロボット

- モノのインターネット(IoT)でロボット制御をします。
- Internet of Things (インターネット) 概念でセンサーも繋がることです。
- 例は、デジタルサインボード(図像)と数値を連携させたシステムに、スマートフォンから情報を受信することです。ユーザーは画像検索をすることで画像を操作することができます。

<Stage2: データ活用コース> (2025/10/8～ 改編)

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム (応用基礎レベル) に準拠した内容です
 ▶ データ活用 (データの収集・分析・解析・可視化) について学びます
 ▶ オープンデータとBIツールを使用して演習を行います
 下記演習課題 (レポート) から選択して受講
 札幌市感染症 / 札幌市人口動態 / 道路検査機

<札幌市人口動態レポートの例>

<Stage3: AIコース> (2025/10/8～ 改編)

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム (応用基礎レベル) に準拠した内容です
 ▶ AIの基礎について学びます
 ▶ DREP GPUにアクセスし下記のAIに関する演習を行います
 画像分類AI / 物体検出AI / セグメンテーションAI / 姿勢推定AI
 属性認識AI / 生成AI

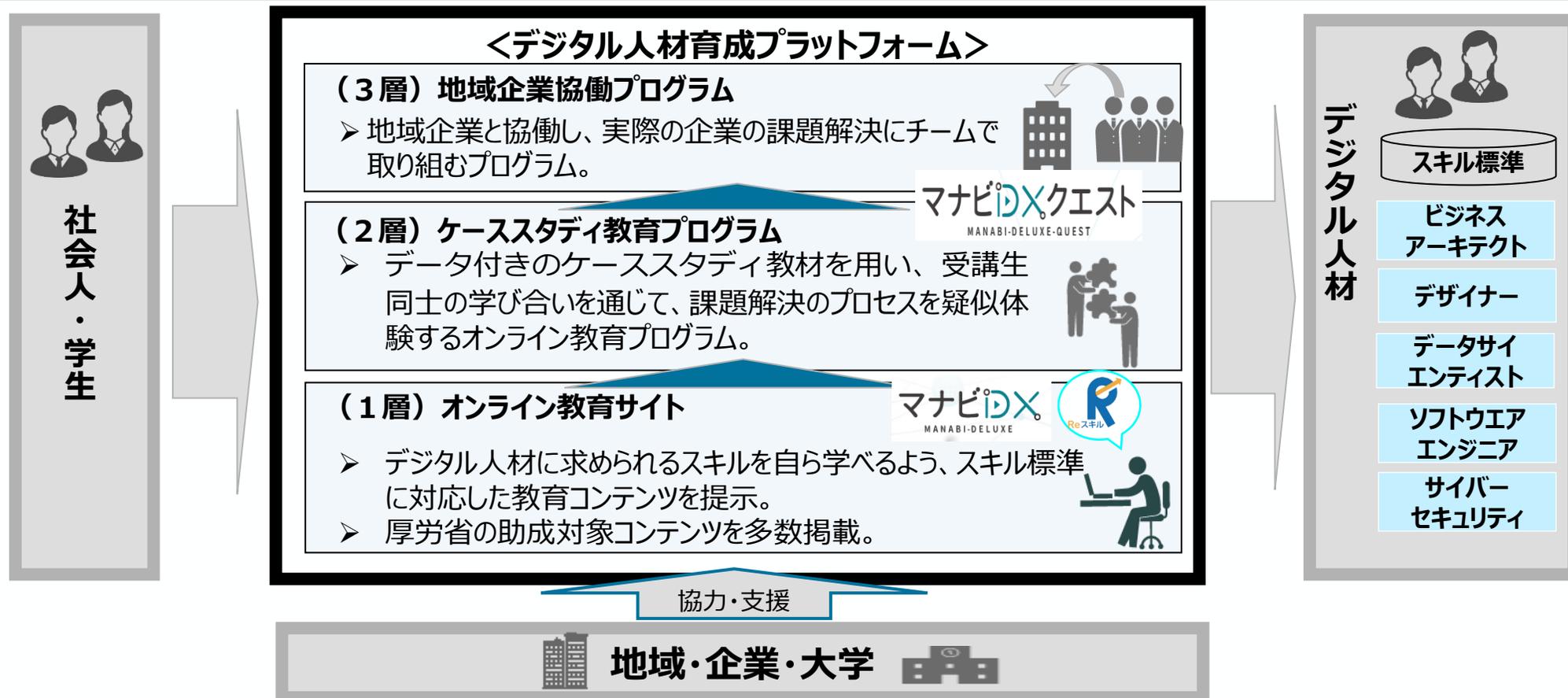
<物体検出AI / 一般向けの例>

DREPの修了証

修了したコースに応じて修了証を発行いたします。

(参考) 経済産業省「マナビDX」、「マナビDXクエスト」

- デジタル田園都市国家構想の実現に向け、地域企業のDXを推進するデジタル人材を育成するプラットフォームを構築し、企業内人材（特にユーザー企業）や個人のリスキリングを推進。
- 民間企業等が提供する教育コンテンツ・講座を一元的に集約・提示するポータルサイト「マナビDX」の整備に加えて、「マナビDXクエスト」（ケーススタディ教育プログラム及び地域企業協働プログラム）を提供し、DXを推進する実践人材を育成。



道内企業への就職促進

道内学生と企業との接点拡大への取組

- 「道内企業をあまり知らない」などを理由に、大学生・高専生が道外へ流出。
- 道内企業の認知度向上を目的とした**企業・経営者・教員・学生との接点づくり**を「ほっかいどうデジタル人材 【つなぐ】 就職促進パッケージ」として実施し、相乗効果を狙う。

「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」 ほっかいどうデジタル人材 【つなぐ】 就職促進パッケージ

(1) 教員向け合同企業説明会 「教員×企業」

- 学生の就職相談の役割を担う教員や就職担当職員を対象とした道内企業の合同企業説明会を開催し、教員等と企業をつなげることで、学生と企業との**間接的接点をつくる**ことを目的に実施

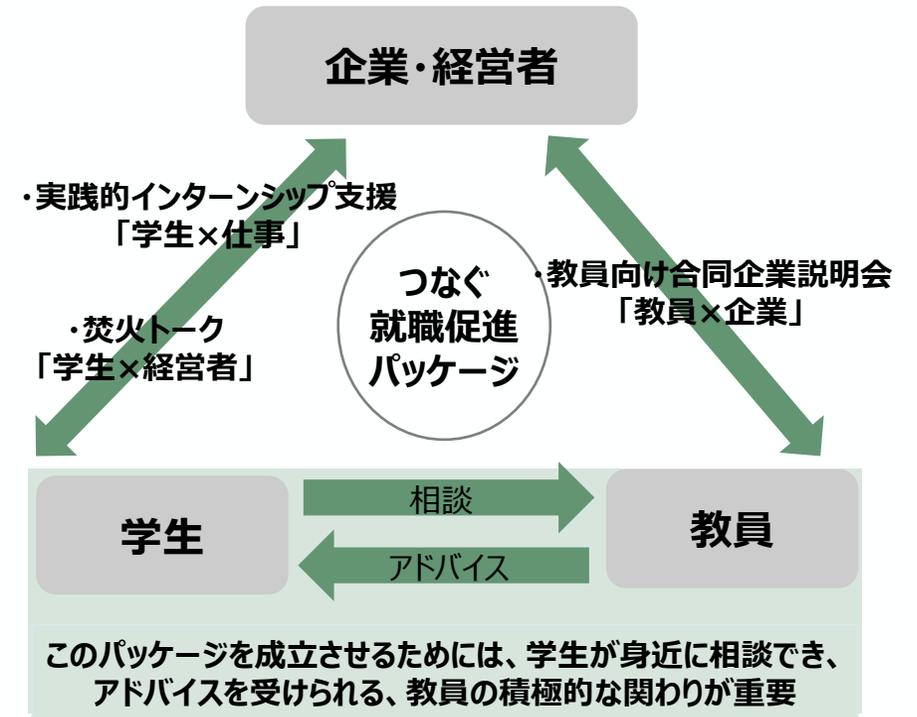
(2) 実践的インターンシップ支援「学生×仕事」

- 学生にとって身に付けられるスキルが多いとされる実践的なインターンシッププログラムの構築と企業に対する学生募集の支援を行い、学生と企業との**直接的接点をつくる**ことを目的に実施

(3) 焚火トーク 「学生×経営者」

- 道内企業の経営者と学生が、焚き火を囲んで本音で話せる環境を作り、学生が「経営者の想い」を感じ、受け取ることで、学生と企業が**より深くつながる**ことを目的に実施

連続的に参加する仕組みづくり
企業と学生の関係性より深く



大学・高専の教員・職員向け合同企業説明会 「教員×企業」

- 道内企業と大学・高専の教職員の接点強化を目的に、(株)北海道銀行や北海道庁と連携して教職員向け合同企業説明会を実施(20社、12校が参加)。
- 昨年度のアンケート結果を踏まえ、今年度は対面開催に加えて交流会や個別面談、学生参加、学校からの情報発信を取り入れ、接点づくりの効果を一段と高めた。

2024年度の課題やご意見

- ① オンライン開催、企業と教職員比が「1：多」によるコミュニケーション不足
- ② 学生も参考になる情報が多いため、学生も視聴できる仕組みにしてほしい
- ③ 企業から学校への説明のみならず、学校から企業へ、各校の特徴や就職実績等を教えてほしい

2025年度の改善内容

- ① **対面形式、交流会の実施、企業と教職員の個別面談マッチング支援の実施**
- ② **学生のオンライン視聴を可能に**
- ③ **学校の就職状況等を記載した資料の配布**

事前サポート

本説明会の参加企業を対象に、**企業の強みを明確に伝えるためのオンライン事前研修を実施。**

＜開催概要＞

日時：2025年10月7日(火)

参加者：登壇する全企業

講師：キャリアフォローアカデミー(株)

代表取締役 藤塚 優子 氏



説明会・交流会の開催

就職・キャリア支援教職員を対象に、新卒者への期待や自社DX取組を紹介する説明会・交流会を実施。

＜開催概要＞

日時：2025年11月5日(水)

場所：さっぽろテレビ塔(オンライン併用)

参加者：企業20社、教職員12校・19名、学生4校・20名

※学生は申込数



事後サポート

① **連絡先一覧の共有**
相互に連絡を取り合えるよう
連絡先一覧を共有。

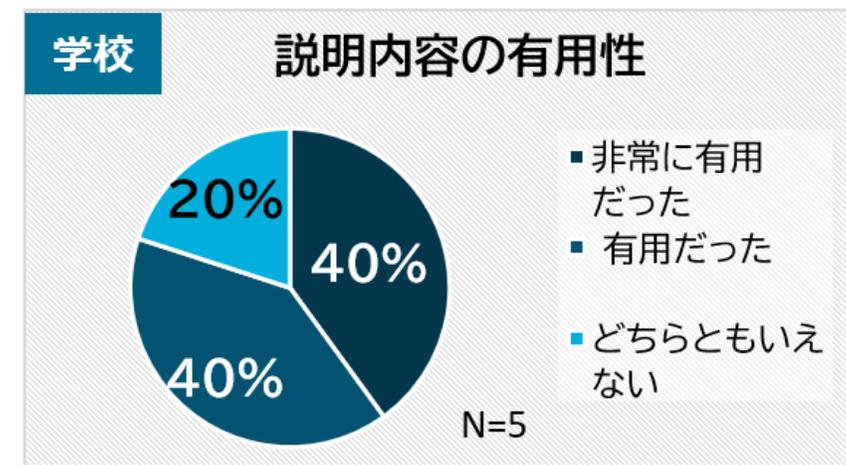
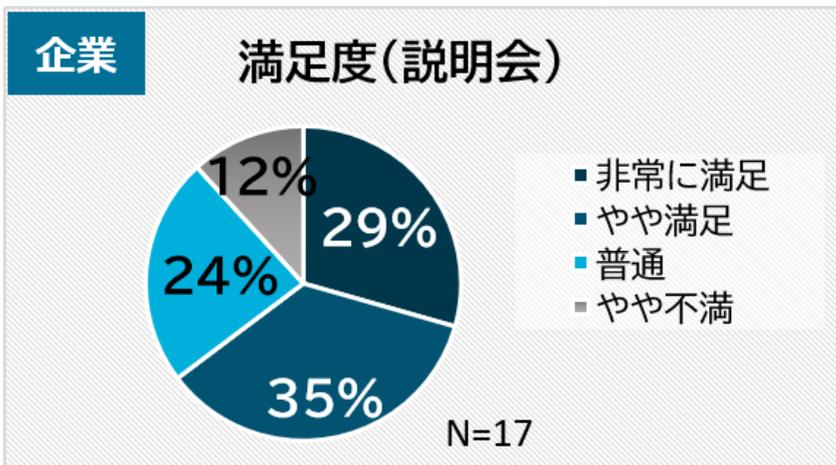
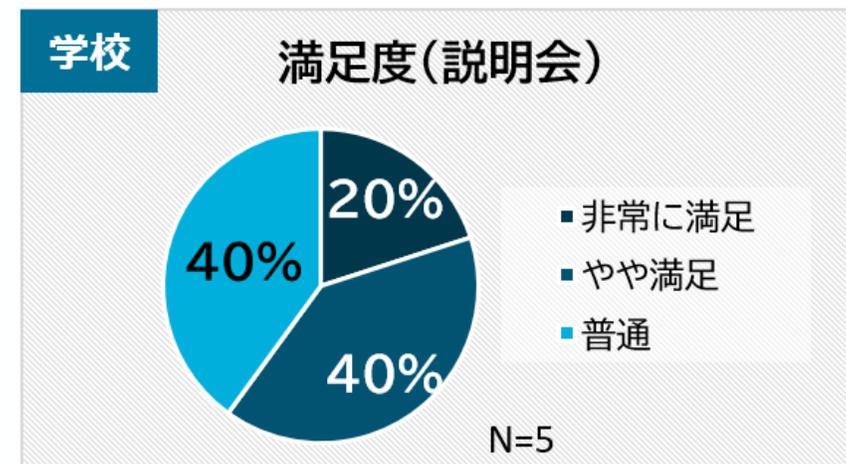
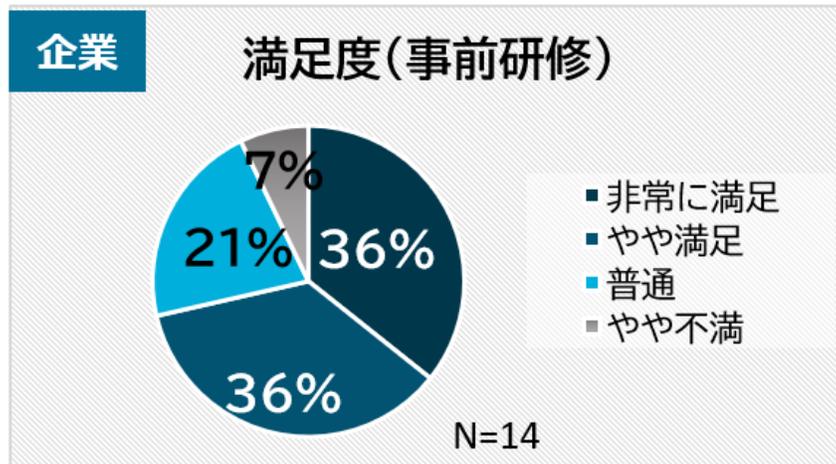
② **個別面談マッチング支援**

個別に面談を実施したい企業・学校を対象にマッチング支援を実施。企業7社、学校1校から希望があり、事務局が調整の上、後日面談を実施。

連絡先や面談を活用し、**講義登壇**などの連携に進んでいるケースもあり

大学・高専の教員・職員向け合同企業説明会 アンケート結果

- 企業・教職員双方にとって有意義な場となり、接点づくりに貢献。採用活動や学生支援に生きる情報交換が実現したのは、事前研修による準備と質疑応答の活発さが起因したと考えられる。
- 一方で、対面参加の教職員が少なく交流機会が限られたことや、学校側から登壇企業の業界内・地域内での位置づけに関する情報提供を求める声があったなど、課題も見られた。



(参考) 説明会の参加企業・参加教育機関一覧

参加企業 (20社)

製造業		情報通信業	
(株) エルムデータ	[札幌市]	(株) I・TECソリューションズ	[苫小牧市]
(株) 希松	[札幌市]	(株) アクセスネット	[札幌市]
光生アルミ北海道 (株)	[苫小牧市]	(株) エクサネットHAL	[札幌市]
シンセメック (株)	[石狩市]	富士フイルムビジネスイノベーション シオンジャパン (株) 北海道支社	[札幌市]
(株) ダイナックス	[千歳市]	(株) プリズム・メディカル	[札幌市]
(株) 中央ネームプレート製作所	[札幌市]	(株) 北海道キューブシステム	[札幌市]
電制コムテック (株)	[江別市]	(株) ログオンシステム	[札幌市]
(株) ニッコー	[釧路市]	その他	
北海道コカ・コーラボトリング (株)	[札幌市]	(株) トータルデザインサービス	[札幌市]
卸売・小売業		日本マーテック (株)	[釧路市]
(株) FUJI	[札幌市]		
(株) ミツ輪商会	[釧路市]		

参加教育機関 (12校)

大学・高専名	教職員 (19名)	学生 (20名)
北海道大学	3名	1名
室蘭工業大学	2名	-
北見工業大学	1名	-
札幌市立大学	3名	1名
札幌大学	1名	1名
北海学園大学	3名	17名
北海道科学大学	1名	-
北海道情報大学	1名	-
北星学園大学	1名	-
苫小牧工業高等専門学校	1名	-
釧路工業高等専門学校	1名	-
旭川工業高等専門学校	1名	-

実践的インターンシップ支援「学生×仕事」

- インターンシップ導入・強化セミナーでは、インターンシップの基礎やトレンド、道内の事例を紹介。企業がインターンシップの価値を理解し、新卒採用の手段として導入を検討できる場を提供する。
- インターンシッププログラム構築支援は、計3回実施し、受入れ時の注意事項・準備・プログラム設計・募集要項作成までをサポート。

	インターンシップ導入・強化セミナー (企業向け)	インターンシッププログラム構築支援 (企業向け)
日程	2026年2月4日(水)	2026年2月9日(月)～3月27日(金)
回数	1回	3回
方法	オンライン	オンライン
対象	新卒採用に課題があり、学生との接点創出・拡大のためにインターンシップの仕組みを積極活用したい道内企業	インターンシップ導入・強化セミナーに参加し、自社でインターンシッププログラムを構築したい道内企業(4社) ※参加企業は次ページに掲載
内容	<p><第一部></p> <p>★講演① 講師：浜中氏 「インターンシッププログラムを通じた企業の成長」</p> <p>★講演② 講師：中野氏 「インターンシップと学生のリアル」</p> <p><第二部></p> <p>★トークセッション 講師：浜中氏・中野氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターン生受入事例紹介 受入企業：東興アイテック(株) ・ディスカッション 	<p>★第一回(集合研修) 講師：中野氏・事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの募集要項作成に向けたポイント説明 ・インターンシップ受入れに向けた必要準備(工程、書類) <p>★第二回(個別開催) 講師：事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れプログラムのブレスト <p>★第三回(個別開催) 講師：中野氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による募集要項ドラフトへのフィードバック

講師プロフィール

NPO法人北海道エンブリッジ 代表理事
浜中 裕之氏



北海学園大学在学中に、新規事業やテストマーケティングなど0⇒1に特化した実践型インターンシップの企画とマッチングをスタート。在学中にNPOを設立し、以降、地域と若者の挑戦機会をコーディネートし続ける。

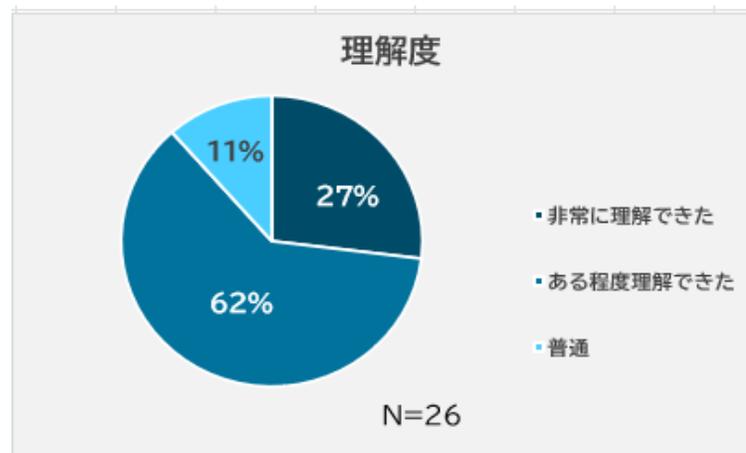
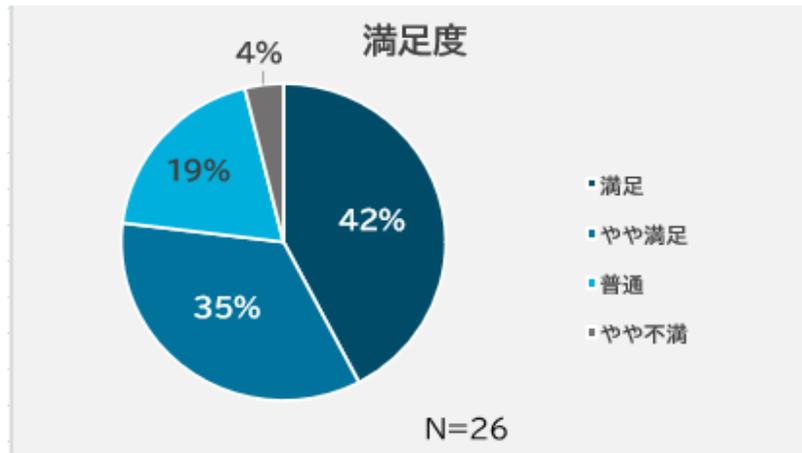
一般社団法人さーもんず/インターンシップ
コーディネーター
中野 智文氏



SAPPORO Incubation Hub DRIVEでコミュニティマネージャーを務めたのち、現在は「北海道移住ドラフト会議」の広報や、学生向け長期インターンシップのコーディネーターとして活動。

インターンシップ導入・強化セミナー アンケート結果

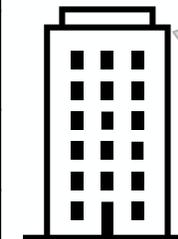
- 「インターンシップにおける学生の視点を知ることができ、参考になった」「長期インターンシップの有効利用について理解できた」といった意見があり、満足度および理解度において7～8割程度と高い結果となった。
- 一方で、「5日間までの短期インターンシップに関する導入的な内容をより詳しく知りたかった」との意見もあり、より初歩的な情報へのニーズが高いことも確認された。



セミナー開催済み
約40名が参加
 インターンシップに関心のある、製造業・情報通信業・建設業など、道内の幅広い業界・業種の皆さまが参加！

(開催中) インターンシッププログラム構築支援の参加企業

企業名	業種	概要
アートシステム (株)	情報通信業	自治体向けシステムソリューション、システム開発、ホームページ制作、ネットワーク構築等
(株) エクスプローラ	受託開発・製造業	医療・産業・通信機器分野等の電子機器の設計・製造
(株) つうけん	通信建設業	通信・社会基盤インフラの整備、ICTソリューションの提供等
(株) 三ッ輪商会	卸売・小売業	エネルギー・建材・機械等を扱う総合商社



インターンシップを“ゼロから構築”したい企業既存のプログラムを“さらに磨き上げたい”企業が参加！

大学・高専経由でのインターンシップ学生募集に関するガイドブックの作成

- 大学・高専を通じたインターンシップ登録方法に関する情報を集約し、ガイドブックを作成する。このガイドブックを企業が活用することで、インターンシップ学生募集の登録を促進させる。
- 本ガイドブックは、協議会参画の経済団体と連携しながら企業への周知を図り、2026年度の夏季インターンシップに向けて活用を促進させる。

本取り組みのメリット

- 学校が取りまとめるインターンシップは、単位化されることも多く、学生の参加意欲が高まりやすい傾向がある
- 企業は自社の採用体制を考慮し、希望する学校に申し込むことができる

本取り組みの概要

(イメージ) 大学・高専経由でのインターン学生募集



「大学・高専経由でのインターンシップ学生募集に関するガイドブック」を企業が活用し、登録を促進



2025年度は、本ガイドブックを作成。2026年度のインターンシップに向けて企業が活用。

企業が効率的にインターンシップ情報を登録できるようにすることで、「学生と企業」、「学校と企業」の接点が拡大

2025年度内に北海道経済産業局HPにて公開予定

経済産業省 北海道経済産業局
Hokkaido Bureau of Economy, Trade and Industry

ホーム > デジタル化・DX > 北海道デジタル人材育成推進協議会

北海道デジタル人材育成推進協議会

経済産業省北海道経済産業局は、道内におけるデジタル人材の育成・確保に向けて、政府、地方公共団体、産業界および高等教育機関による連携・協力の在り方を議論するため、北海道デジタル人材育成推進協議会を2023年3月に設置しました。文部科学省および経済産業省は、全国版デジタル人材育成推進協議会を2022年9月に設置しており、北海道協議会はその地域ブロック版として全国初となります。

開催実績等

- ❖ 北海道デジタル人材育成推進協議会の設置～地域ブロックでは全国初の試み～
- ❖ 第1回本会議 (2023年3月14日)
- ❖ ワーキンググループ開催報告 (2023年9月26日)
- ❖ 第2回本会議 (2024年3月11日)
- ❖ 2024年度本会議 (2025年3月6日)

関連事業開催情報

- ❖ 《更新》「インターンシップ導入・強化セミナー」と「インターンシッププログラム構築支援」を実施します (26/01/22 update)
- ❖ 道内大学・企業連携によりデジタル人材育成カリキュラムを強化します～課題解決型学習 (PBL) と実務家教員の派遣～ (24/05/28)

ガイドブックの掲載内容イメージ

▼インデックス（目次）

- ◆ 01. はじめに
- ◆ 02. 昨今の学生のインターンシップ等への参加状況
- ◆ 03. インターンシップの定義について
- ◆ 04. インターンシップに取り組むメリット
- ◆ 05. 道内企業のインターンシップ取組事例
- ◆ 06. インターン登録方法、大学・高専がとりまとめるインターンシップの種類
- ◆ 07. 本協議会の参画機関におけるインターンシップの関連情報

<補足>

大学・高専のインターンシップ登録情報以外に、「学生のインターンシップの参加状況」、「インターンシップの定義」、「メリット」、「取組事例」など企業がインターンシップを活用する際に参考となる情報を併せて掲載。

▼企業が活用できる情報を掲載 例：インターンシップの定義について

【参考】学生のキャリア形成支援活動（4 類型） — 特徴の比較 —

	類型			
	タイプ1： オープン・カンパニー	タイプ2： キャリア教育	タイプ3： 汎用的能力・専門活用型インターンシップ	タイプ4（試行）： 高度専門型インターンシップ
①目的	個社や業界に関する 情報提供・PR	働くことへの理解を 深めるための教育	就業体験を通じて、 学生にとっては自らの能力の見極め、 企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、 学生にとっては実践力の向上、 企業にとっては学生の評価材料の取得
②代表的ケース （主に想定される もの）	企業・就職情報会社や 大学キャリアセンターが 主催するイベント・説明 会	●大学が主導する授業・ 産学協働プログラム （正課・正課外を 問わない） ●企業がCSRとして 実施するプログラム	企業単独、大学が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する。適性・汎用的能力のないし、は専門性を重視したプログラム	●ジョブ型研究インターンシップ （自然科学分野の博士課程学生を対象に 文科省・経団連が共同で試行中） ●高度な専門性を重視した修士課程学生向 けインターンシップ（仮称） （産学協議会で検討中）
③就業体験	なし	任意	必須 ★(a) 就業体験要件 学生の参加期間の半分以上の日数を職場での 就業体験に充てる（テレワークが常態化している 場合は、テレワークも「職場」） ★(b) 指導要件 就業体験では、職場の社員が学生を指導し、 インターンシップ終了後、学生に対しフィード バックを行う	必須
④参加期間 （所要日数）	超短期（単日）	授業・プログラム によって異なる	★(c) 実施期間要件 ・(i) 汎用的能力活用型は短期（5日間以上） ・(ii) 専門活用型は長期（2週間以上）	●ジョブ型研究インターンシップ： 長期（2か月以上） ●高度な専門性を重視した修士課程学生 向けインターンシップ（仮称）：検討中
⑤実施時期	時間帯やオンラインの活 用等、学業両立に配慮し、 学士・修士・博士課程の 全期間（年次不問）	学士・修士・博士課程の 全期間（年次不問）。 但し、企業主催の場合は、 時間帯やオンラインの 活用等、学業両立に配慮	★(d) 実施時期要件 学業との両立の観点から、「学部3年・4年 ないしは修士1年・2年の長期休暇期間（夏休み、 冬休み、入試休み・春休み）」 但し、大学正課および博士課程は、長期休暇に 限定されない	—
⑥取得した学生 情報の採用活動 への活用	不可	不可	採用活動開始以降に限り、可	採用活動開始以降に限り、可

▼例：北海道デジタル人材育成推進協議会の参画機関 におけるインターンシップの関連情報

学校名 （所在地）	学校区分	学部	単位認定型イン ターンシップ	企業公募型イン ターンシップ	連絡窓口	関連情報
北見工業大学（北見市）	国立大学	工学部	〔制度〕あり ＜単位認定条件＞ ・原則として夏季休業期間中とし、期間は、連続した1週間（概ね40時間）以上であること ・大学から依頼する関連書類の提出に協力できること ・原則、無報酬であること （交通費・食費・宿泊費等の手当てを除く） ※詳細については北見工業大学HP（ https://www.kitami-it.ac.jp/campuslife/career-support/intern/ ）をご確認いただくか、学生支援課キャリア支援係までお問い合わせください。	①北見工業大学インターンシップ申込システムから登録（ホームページ等で申込方法を掲載します。申込時期：例年4月上旬～4月末頃まで） ②学生支援課キャリア支援係に学生周知用のチラシ・募集要項等をメールまたは郵送で送付（申込時期：連年）	学生支援課キャリア支援係 電話番号 ①0157-26-9184 メールアドレス gakusei02[at]desk.kitami-it.ac.jp	https://www.kitami-it.ac.jp/campuslife/career-support/intern/

焚火トーク「学生×経営者」

- デジタル人材を採用したい道内企業の経営者とデジタル分野で活躍したい学生がより深くつながることを目的に、焚火を囲んで本音で話す「焚火トーク2025」を開催し、道内から3社の経営者（実務責任者）と、11名の学生が参加した（昨年度までに同様の取り組みを計4回実施）。
- また、2024年度函館市等が共催した「焚火トークin函館」の開催をきっかけに、2025年度は、函館市が予算を獲得し、独自に焚火トークを開催。

概要

日時：2025年11月8日（土）

会場：焚き火BAR ALBERT（札幌市）

主催：北海道経済産業局、（一社）北海道商工会議所連合会

共催：札幌商工会議所青年部



参加学生（4校・11名）

北海道大学	1名
札幌大学	2名
北海学園大学	5名
北海道科学大学	3名

参加企業（3社・3名）

- ・Career Solution Labo.（コンサルタント）
代表 伊藤 真哉 氏
- ・CTCシステムマネジメント（株）（IT）
ソリューション開発本部 課長 中原 健一 氏
- ・（有）北創フーズシステム（卸売）
専務取締役 吉田 隆人 氏

（参考）函館市独自開催

概要

日時：2025年10月9日（木）

会場：函館五稜乃蔵

主催：函館市、産学官連携クリエイティブネットワーク

参加学生：13名（2校）

参加企業：4社（函館市内の企業）

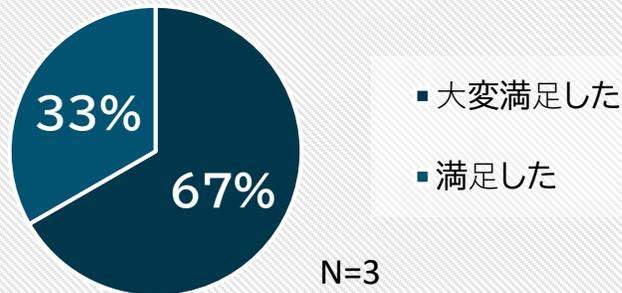


焚火トーク2025 アンケート結果

- 「普段の就職活動で聴ける話とは違った内容について聞く事ができて、良い経験を得る事ができた。」との学生からのコメントがあり、焚火を囲んだリラックスした雰囲気づくりが好影響を与えたものと考えられる。
- この結果、多くの学生が地域の企業の多様な事業内容に興味を持つようになり、道内中小企業への関心を高める結果となったものと思われる。

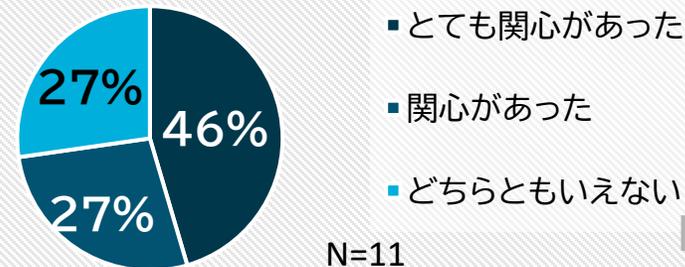
経営者

満足度



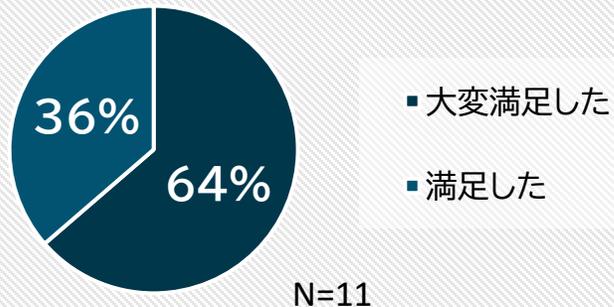
学生

道内中小企業への関心(参加前)



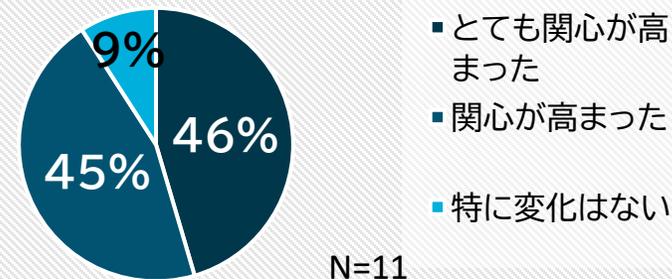
学生

満足度



学生

道内中小企業への関心(参加後)



＜補足＞
参加前に「どちらともいえない」と回答した3名全員が、参加後は「関心が高まった」と回答。

参画機関のネットワーク強化 提供プログラムの相互活用

協議会ネットワークを活用した人材育成プログラムの周知と活用促進

- 協議会参画機関が実施するデジタル人材育成プログラムやセミナーを紹介するメルマガを配信し、各機関間での相互活用を促進。
- また、経済産業省等が実施する人材育成事業（未踏、AKATSUKI など）についても、参画大学・高専に所属する学生の参加を促すため、積極的に情報発信を行った。

◆ 2023年6月23日から配信スタート

◆ 配信登録者数：80名（2月26日現在）

◆ 配信数：78通（2月26日現在）

- 右側に掲載しているような、学生が参加できるプログラムを随時紹介しています。引き続き、教員の皆さまから学生への周知にご協力をお願いします。
- また、参画機関が実施する様々なプログラムについても、情報発信いたしますので、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。

▼学生が参加できるプログラムに関して2025年度は情報発信を強化

2000年度～	2023年度～
<p>日本全国版</p> <p>未踏事業</p> <p>https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/koubou/</p>	<p>地方地域版</p> <p>AKATSUKI</p> <p>プロジェクト</p> <p>https://mitouteki.jp/</p>
<p>目的</p> <p>IPAが中心となり、日本全国から新たな価値を創造するIT人材を育成 ITを駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデアと技術を有するとともに、これらを活用する優れた能力を持つ、突出した人材を発掘・育成^{*1}</p>	<p>地方・地域コンソーシアムから</p> <p>新たな価値を創造するIT人材・起業家を育成 未踏事業の人材発掘・育成プログラムを全国各地においても広く展開し、地域における若手人材の自律的・継続的な育成活動の面的拡大を目指す</p>
<p>特徴</p> <p>①日本を代表する各分野で活躍するPMが常同</p> <p>②2400人以上の未踏修了生のコミュニティ</p> <p>・2000年以降25年間続く歴史ある事業</p>	<p>①各地域ごとに異なる支援メニューを用意</p> <p>②地域貢献・活性/地域から社会→世界へ</p> <p>・2025年度地域横断も含め24事業者採択</p>
<p>人材像</p> <p>未踏的なアイデアを育てたい</p> <p>・アイデアがある・技術がある・情熱がある</p> <p>「独自性・革新性があり、社会的インパクトを与え、イノベーションを創出する可能性を秘めたプロジェクト実現しようとしている若い逸材」^{*2}</p>	<p>地方発の未踏的なアイデアで課題解決にも取り組みたい</p> <p>左記の未踏性を有するほか、地域や特定のコミュニティに対する貢献（課題解決、起業等）マインドを有する者</p>

^{*1}出典：IPA、「未踏事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/about.html>（参照2024-02-29）
^{*2}出典：IPA、「未踏IT人材発掘・育成事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/it/about.html>（参照2024-02-29）

Security College for Youth (SC4Y) って？

セキュリティ カレッジ フォー ユース
Security College for Youth :SC4Y

- 社会の様々な分野で活躍する学生、青年層に、サイバーセキュリティに関する知見、技術を体系的に身につけてもらう
- 将来のセキュリティリーダー、ホワイトハッカーになり得る人材の発掘と育成
- 知見・技術のある青年層を輩出することによる社会全体のセキュリティ対応能力の底上げ

定期的な勉強会の実施（段階的に知識を身につける） → 競技会やCTF等への参加（研鑽した力での参加）

（出所）北海道警察 サイバーセキュリティ取組紹介
人材育成プロジェクト【Security Collage for Youth (SC4Y)】

※Micro Hardening：数名のチームを組んで、与えられたECサイト等を様々なサイバー攻撃から守り安定稼働させることを目指す競技会

2025年度のSC4Y開催概要

5/18 (STEP1) 勉強会

次世代のサイバー人材の育成を目的とした若手向けの実機を使ったセキュリティ勉強会。Blue Team演習や初心者向けのハードニング等を実施。

6/21 (STEP2) Micro Hardening Basic

「Micro Hardening for Youth」の難易度を下げた入門編となる競技会。「Micro Hardening for Youth」の前哨戦という位置付け。

8/9 (STEP3) Micro Hardening for Youth

カジュアルに「ゲーム感覚」で、サイバー攻撃に対処する能力を磨くことを目指す競技会。参加者はECサイトの管理者となり、様々なサイバー攻撃に対処しながらシステムの安定稼働と売上の獲得を競う。

北海道大学実施のプログラムとの連携（北海道大学×高専アイデアソン）

- 北海道大学は、企業からの課題に対して、道内の4つの高専の学生が解決策を考える「アイデアソン」を開催（本協議会は共催）。北海道大学の学生はメンターとして参加。
- 道内高専生及び北海道大学の学生・教員と道内企業との接点を作ることを目的として実施。あわせて、プログラム内で企業の実課題解決に挑戦することから、デジタル人材の育成にも寄与。
- 本協議会に参画する経済団体を通じて募集を行い、道内企業10社が参加。

内容	▼2026年3月4日（水）・5日（木）開催（北海道大学 クラーク会館） 1日目：企業側から課題の説明、学生グループによるワークショップ（アイデアソン）及び交流会 2日目：学生グループによるワークショップ（アイデアソン）、グループ発表・講評		
参加企業	<ul style="list-style-type: none"> （株）アクセスネット（札幌市） 伊藤組土建（株）（札幌市） （株）エルムデータ（札幌市） 札幌トヨタ自動車（株）（札幌市） CTCシステムマネジメント（株）（札幌市） 	<ul style="list-style-type: none"> 電制コムテック（株）（江別市） （株）NiTec（北広島市） フジテック（株）（札幌市） 北海道コカ・コーラボトリング（株）（札幌市） 北海道旅客鉄道（株）（札幌市） 	
参加学生	▼道内4高専（本科生・専攻科生）及び北海道大学生 計40名程度（北大生はメンター役での参加）		
主催	北海道大学MDSC	共催	本協議会、北海道大学大学院情報科学研究院

（参考）2024年度の北海道大学×高専アイデアソンの様子 （出所） <https://hokkaido.kosen-campus.com/report/2nd/>

北海道大学×
高専アイデアソン



その他

2025年度ワーキンググループ会議で提案したKPI

- 当協議会の実務家教員派遣等のマッチング事業で実施する講義の受講者数を一つ目のKPI項目とする。
- MDASHが適用されている学部・学科を卒業した学生※¹の道内就職率の向上を二つ目のKPI項目とする。
- 目標の設定年次は、基準値の年度から2026年度※²までとする。
- 本日の議論の結果を踏まえ、2025年度開催の本会議までに設定し、公表を行う予定。

KPI設定イメージ **【取扱注意】 下記基準値は、あくまで参考値です。了承後、正式な数値に置き換えます。**

	KPI項目	基準値 2024年度	目標値 2026年度	KPIの説明
①	PBL及び実務家教員派遣のマッチングにより実施する講義の受講者数	800人	2,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準値出所：当協議会のマッチング事業を活用して当協議会参画大学・高専が実施したPBL及び実務家教員派遣講義の受講者数 ・ 目標値根拠：2025年度は2024年度の2倍、2026年度は2024年度の2.5倍
②	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（通称MDASH）が適用されている学部・学科を卒業・修了した学生の道内就職率	(参考値※ ³) 54.4%	(参考値※ ³) 57.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準値出所：当協議会参画大学・高専の数理・データサイエンス・AI教育プログラムが適用されている学部・学科を卒業・修了し、就職した者のうち、道内企業へ就職した割合目標値根拠：2024年度比5%増※⁴

(※1) MDASH認定を受けていない大学・高専が新たに認定を受けた際には、卒業した学生数に加算する。

(※2) 2026年度までとした理由：デジタル田園都市国家構想のデジタル人材育成目標の最終年度に合わせ、2026年度までとした。

(※3) 参考値とした理由：基準値は各大学・高専のホームページ情報の積み上げによるもの。2024年度の就職情報が更新されていない、大学・高専もあるため、2023年度の情報で作成。さらに、ホームページだけではMDASHが適用されている学部・学科が判別できない場合があり、正確な数値を抽出することができなかつたため、「参考値」とした。また、この基準値を基にした目標値もあわせ「参考値」とした。

(※4) 「5%増」とした根拠：北海道IT推進協会「ITレポート」中の「道内IT産業の従業者数」の過去5年間の増加数から、単年度平均値を算出（年377名増）。目標年次まで毎年、同数増加することを見込むと、伸び率は3.2%となる。当協議会では、さらに1.8%をプラスした5%を目指すこととし、「数理・データサイエンス・AI教育プログラムが適用されている学部・学科を卒業・修了した学生の道内就職率」の目標値の根拠とする。

KPIの設定について

- 2025年度ワーキンググループ会議においてKPI設定について合意を得たことから、以下のとおり整理した。
- KPI項目①については、2025年度の間目標値1,600人に対し、実績は2,027人となり目標を大きく上回った。さらに、この実績が2026年度の間目標値2,000人を既に超過したことから、新たな目標値を2,400人に再設定した。
- KPI項目②については、2024年度の実績を基準値として設定した。2025年度の間目標値に対する実績（2026年3月末の卒業生に対する道内就職率）はまだ確定していないため、次年度にて改めて報告することとする。

KPI項目①		2024年度	2025年度	2026年度	KPIの説明
PBL及び実務家教員派遣のマッチングにより実施する講義の受講者数	基準値及び目標値	800人 (基準値)	1,600人 (中間目標値)	2,400人 (最終目標値)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基準値：当協議会のマッチング事業を活用して当協議会参画大学・高専が実施したPBL及び実務家教員派遣講義の受講者数 ● 最終目標値：2025年度は2024年度の2倍、2026年度は2024年度の3倍
	実績	815人	2,027人	—	
KPI項目②		2024年度	2025年度	2026年度	KPIの説明
数理・データサイエンス・AI教育プログラム（通称MDASH）が適用されている学部・学科を卒業・修了した学生の道内就職率	基準値及び目標値	49.8% (基準値)	51.0% (中間目標値)	52.3% (最終目標値)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基準値：当協議会参画大学・高専の数理・データサイエンス・AI教育プログラムが適用されている学部・学科を卒業・修了し、就職した者のうち、道内企業へ就職した割合 ● 最終目標値：2024年度比5%増
	実績	49.8%	—	—	

(参考) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (通称：MDASH) の協議会参画教育機関の認定状況について

大学・高専名	MDASH認定状況
北海道大学	リテラシー/応用基礎
室蘭工業大学	リテラシー/応用基礎
小樽商科大学	リテラシー
帯広畜産大学	リテラシー
旭川医科大学	リテラシー
北見工業大学	リテラシー/応用基礎
公立ほこだて未来大学	リテラシー/応用基礎
公立千歳科学技術大学	リテラシー/応用基礎
札幌市立大学	認定を受けていない
旭川市立大学	リテラシー
札幌大学	リテラシー

大学・高専名	MDASH認定状況
札幌学院大学	リテラシー
北海学園大学	リテラシー
北海道科学大学	リテラシー/応用基礎
北海道情報大学	リテラシー/応用基礎
北星学園大学	リテラシー
北海道医療大学	リテラシー/応用基礎
函館工業高等専門学校	リテラシー
苫小牧工業高等専門学校	リテラシー/応用基礎
釧路工業高等専門学校	リテラシー/応用基礎
旭川工業高等専門学校	リテラシー/応用基礎

2026年度からの情報系の専門学校の協議会参画に関する検討（案）

背景：道内の情報系専門学校より、協議会に参画したい旨、事務局へ打診があったため、具体的検討を行った。

- **高等教育機関としての位置づけの明確化**

2024年の学校教育法改正により、専門学校は単位制導入、大学編入制度の整備等が実施され、2026年度から施行、専門学校が高等教育機関として位置づけられることが一層明確となる（※）。

- **道内におけるデジタル人材供給基盤**

専門学校は地域就職率が高く、道内企業、特にDXを推進する企業にとって最も重要なデジタル人材の供給源となっている。また、職業実践専門課程などを通じ、実践的教育が行われており、システム開発をはじめとするデジタルスキルを備えた即戦力人材を継続的に輩出している。

- **即時参画が可能な学校の存在**

道内にはすでに協議会への参画を希望する情報系の専門学校が存在しており、2026年度から協議会事業に速やかに参画できる。

※<http://souken.shingakunet.com/higher/2025/04/post-3475.html>

スケジュール（案）

2026年1月中	2026年3月3日	2026年3月4日～ 3月31日	2026年4月1日以降
検討（案）の作成	本会議にて意見交換	設置要綱の改定	専門学校の協議会参画

2026年度事業方針案

2026年度協議会事業方針案

主な取り組み

<p>デジタル人材育成 機能の強化</p>	<p>(1) 大学・高専等の実務家教員派遣等の希望に対する企業マッチングの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携を促進するプラットフォームを開設し、産学間のコミュニケーション基盤を構築。 過去に実施したプログラムをケースバンク化し、再利用を可能に。 講義や現場見学会を提供できる企業情報を収集し新規ケースとして格納（特にAI関連の講義ができる企業を充実させる）。 <p>(2) AI人材の育成（AIワークショップの開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・教員・道内IT企業が交流するアイデアソン、座談会、マッチングイベントを実施。 人材育成要素を強化するとともに学生と企業、教員と企業の接点を作ることで、将来的な人材確保にもつなげる。 <p>(3) 社会人リスキリング推進</p> <ul style="list-style-type: none"> AI関連の講座も充実している「北海道大学リスキリングプログラム（DREP）」、「経済産業省マナビDX」を引き続き推進。
<p>道内企業への就職 促進</p>	<p>(4) 実践的インターンシップ支援（企業向けセミナー、インターンシップガイドブック）</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップは企業にとって重要な人材確保手段であることから、継続的に実施するとともに、2025年度に作成したガイドブックの活用を企業へ促進する。 道内企業による大学・高専へのインターンシップ募集登録を後押しし、学生の参加拡大を図る。
<p>その他</p>	<p>(5) 2026年度からの情報系の専門学校協議会参画</p>

参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用

- (1)協議会参画機関が実施する、デジタル人材育成に関連する情報等を発信するメルマガの継続配信
- (2)協議会参画機関が提供するプログラムとの連携

会議スケジュール（予定）

WG会議：2026年6月頃
本会議：2027年3月頃

(参考) 人工知能基本計画の概要

